

学校教育目標

目指す児童像

こころやさしくたすけあう子  
 さがしもとめて学ぶ子  
 からだをきたえ明るい子  
 きまりをまもりやりぬく子

本年度の児童の実態より（全体課題）

学校経営方針

本校教育課程

※1年生から6年生の学習について1学期に見取った様子から、本校児童には次のような課題が見えてくる。

- ・文章問題から必要な数を取捨選択し、正しく立式すること。
- ・図形の領域に対する苦手意識がある。
- ・四則計算の力が十分に定着していない。

- 1年生…計算スピードが遅い。（手を使っている。）数の構成の言い回しが不十分である。文章題の読み取り、答え方が定着していない。式の説明や考え方の説明に取り組み始めたが、上手に説明できる児童は少ない。
- 2年生…長さやかさ、時刻や時間などの量的感覚に課題がある。数量のまとまりの概念が弱く、計算のスピードが遅い。文章問題文の題意を把握することが苦手な児童が多い。
- 3年生…基礎的な計算の技能は概ね習得されているものの、個人差が大きい。一方、時刻や時間を求める問題では、量感を感じられない児童が多い。また、長さや時間の学習では目盛りや数値を正しく読み取ることができない児童も多い。簡単なわり算の計算はできるが、あまりのあるわり算では、余りや商をとらえることに難しさを感じている。また、全体的に、文章問題で求められていることをとらえることに苦手意識を感じる児童が多い。
- 4年生…学力調査では、すべての領域において全国平均を上回った。しかし、四則計算の力が十分に定着していない児童が多い。文章題からの立式が困難な児童が多い。
- 5年生…学力調査では すべての領域において県平均を上回っている。しかし、図形の領域に関しては苦手意識が高い。また、個人差が大きく、四則計算の意味や方法を十分に理解していない児童も多い。
- 6年生…図形の領域で、図形の定義や底辺や高さの関係のとらえ方に課題がある。変化と関係の領域で、単位量当たりの大きさを求める力に課題がある。

方策

	*9月からの取組	成果の検証
	○スキルタイムで「キュピナ」「メクビット」「アシストシート」等を活用し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 ○クロームブックを活用したり、思考ツールを活用したりして、個別最適化な学びと協働的な学びの往還を意識した授業づくりを行う。 ○長崎県授業改善メソッド及びあじさいスタンダードを意識した授業づくりを徹底する。	
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた時間で何問の計算ができるかを定期的にさせスキルアップを図る（スキルタイム・授業中）。</li> <li>・「キュピナ」「アシストシート」を使って活用力を身に付けさせる（宿題→解説）。</li> <li>・文章題のキーワードに着目して立式する練習をさせる。</li> <li>・式の意味を考えさせ、子供を活かす場面を多く設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量の関係を絵や図に表す活動や、図と式を関連付けて説明しあう学習活動を設ける。</li> <li>・基本的な計算の反復練習を行い、基礎学力の定着を図る。</li> <li>・「キュピナ」や「ゆめあこ」、プリント等を活用し、個に応じた課題に取り組みさせる。</li> <li>・具体的操作活動の場を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の時間や毎日の課題において、苦手な領域の基礎的な問題や活用問題に取り組みさせる。また、時間、長さ、重さなど視覚的には見えづらい量を、実際に測ったり、道具を使ったりするなど体験活動を行い、量感を感じさせていきたい。</li> <li>・授業中、クロームブックを活用して、図や表を使った数学的活動を行い見通しが立てられるようにする。また、自力解決できるように机間巡視をしたり、ヒントカードを渡したりするなどの支援をする。</li> <li>・授業終末には、練習問題に取り組みさせて定着を図る。</li> <li>・意欲、興味をもって取り組むことができるように、「キュピナ」等も活用していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題場面を具体的に想像できるように、数量の関係を絵や図に表す活動を行う。また、図と式を関連付けて立式の根拠や解決の仕方を説明しあう対話活動の時間を設定し、多様な考え方を知り、よりよい解法に気づけるようにする。</li> <li>・ICTを活用し、「キュピナ」などで個々に対応した課題に取り組みさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、数量の関係を絵や図に表しながら、説明を書く時間を確保し、その根拠を友達と話し合う活動を取り入れていく。</li> <li>・「キュピナ」を活用し、下学年の復習にも取り組みさせ、基礎学力の定着を図る。</li> <li>・具体物の操作活動を通して、図形の性質についての理解を深めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業の中で、数量の関係を図に表しながら、説明を書く時間を確保する。その根拠を友達と話し合ったり、書いたりする活動を取り入れる。</li> <li>・スキルタイムにおいて、「メクビット」「ゆめあこ」「アシストシート」を用いて、図形や変化と関係の領域の今までの復習を行う。</li> <li>・3学期に、習熟度別にクラスを分けて、個別指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。</li> </ul>